

みずほCustomer Desk Report 2022/07/22 号 (As of 2022/07/21)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	138.48
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	138.43	1.0180	140.95	1.1966	0.6884
SYD-NY High	138.88	1.0279	142.31	1.2004	0.6940
SYD-NY Low	137.30	1.0154	140.14	1.1891	0.6860
NY 5:00 PM	137.34	1.0232	140.47	1.2004	0.6936
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	32,036.90	162.06	日本2年債	▲0.0800%	0.0000%
NASDAQ	12,059.61	161.96	日本10年債	0.2300%	▲0.0100%
S&P	3,998.95	39.05	米国2年債	3.0945%	▲0.1401%
日経平均	27,803.00	122.74	米国5年債	2.9877%	▲0.1786%
TOPIX	1,950.59	4.15	米国10年債	2.8803%	▲0.1491%
シカゴ日経先物	27,900.00	295.00	独10年債	1.2165%	▲0.0405%
ロンドンFT	7,270.51	6.20	英10年債	2.0455%	▲0.0960%
DAX	13,246.64	▲ 35.34	豪10年債	3.5610%	▲0.0170%
ハンセン指数	20,574.63	▲ 315.59	USDJPY 1M Vol	10.33%	▲0.48%
上海総合	3,272.00	▲ 32.72	USDJPY 3M Vol	10.81%	▲0.30%
NY金	1,713.40	13.20	USDJPY 6M Vol	10.83%	▲0.27%
WTI	96.35	▲ 3.53	USDJPY 1M 25RR	▲0.63%	Yen Call Over
CRB指数	281.84	▲ 5.20	EURJPY 3M Vol	12.84%	▲0.20%
ドルインデックス	106.91	▲ 0.17	EURJPY 6M Vol	12.79%	▲0.10%

東京	東京時間のドル円は138.43レベルでオープン。序盤買いが先行し138.55まで上昇するも仲値後に実需の売りフローが持ち込まれ138円前半まで下落。その後の日銀金融政策決定会合では現行の金融緩和維持方針が発表され直後買いで反応するも、展望レポートにおいて22年度の物価見通しが前回の+1.9%から+2.3%へ引き上げられたことを受けて138.00まで下落する展開に。その後節目で反発し、海外時間のECB理事会も控えた慎重な動きの中138.40レベルまで水準を戻し138.35レベルで海外時間へ。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、138.35レベルでオープン。本日のECB理事会を前にユーロがやや弱含みドル円も押し上げられた。一時138.88まで上昇し138.75レベルでNYに渡った。なお本日のECBの金融政策はNY時間に発表される。
ニューヨーク	ECB理事会を控え、ドルがやや買われたことや、日銀金融政策決定会合で据え置きが発表され、主要各国と日本の政策の方向性の違いが着目され、海外市場のドル円は138.88まで戻し、138.75レベルでNYオープン。朝方はECB理事会で予想以上の50bpの利上げが発表され、ユーロ円が上昇する動きに138.84まで戻すが、続いて発表された7月フィラデルフィア連銀景況指数が予想を大きく下回ったこともあり、138.31まで反落。その後しばらくは138.40付近での推移が続くが、ラガルド総裁の記者会見を受けユーロ円が急落する動きにドル円も連れ安となる中、米金利低下もあり137.72まで下落。午後は米金利が引き続き低下する中ドル円は上値を切り下げ、137.30まで下落し137.34レベルでクロスした。一方、ユーロドルはECB理事会を控え1.0167まで下落し、1.0192レベルでNYオープン。朝方は予想以上の利上げ発表や、フィラデルフィア連銀景況指数の結果を受けたドル売りに1.0279まで上昇する。しかしラガルド総裁が6月時のガイダンス(7月は25bpの利上げで9月はおそらくそれ以上の利上げ)は9月の金融政策には適用されないとの発言を受け、次回の大幅利上げ期待が後退し、新しいツールであるTPIについても利用できる国がほとんどないとの見方もあり、1.0154まで反落する。その後は方向感のない推移がしばらく続くが、午後になると米金利低下を受けユーロが買い戻される展開に、1.0234まで戻し、1.0232レベルでクロスした。

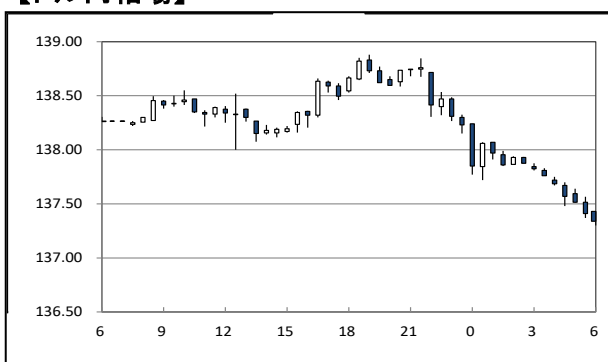
【昨日の指標等】

Date	Time	Event		結果	予想	
7月21日	-	日	日銀 金融政策決定会合	21-Jul	-0.10%	-0.10%
	21:15	欧	ECB主要政策金利	21-Jul	0.50%	0.25%
	21:15	欧	ECB預金ファシリティ・レート	21-Jul	0.00%	-0.25%
	21:30	米	フィラデルフィア連銀景況	7月	-12.3	0.8
	21:30	米	新規失業保険申請件数	16-Jul	251k	240k
7月22日	08:01	英	GfK消費者信頼感	7月	-41	-42
	08:30	日	全国 CPI/コアCPI/コアコアCPI	6月	2.4%/2.2%/1.0%	2.4%/2.2%/0.9%

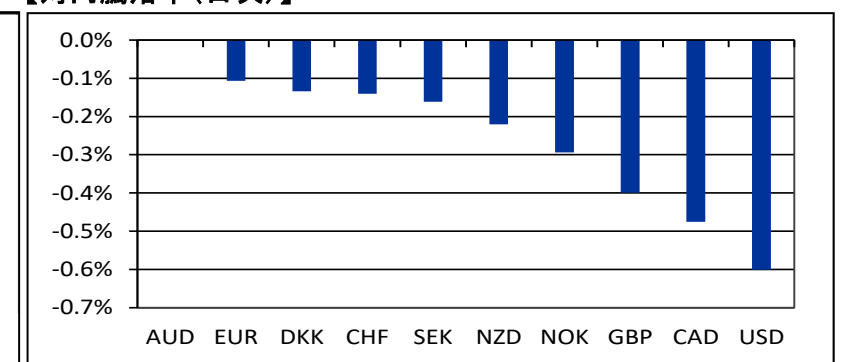
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
7月22日	15:00	英 小売売上高(除自動車燃料、前月比/前年比)	6月	-0.4%/-6.2%
	16:30	独 製造業/サービス業/総合 PMI	7月	50.7/51.4/50.2
	17:00	欧 製造業/サービス業/総合 PMI	7月	51.0/52.0/51.0
	21:30	米 製造業/サービス業/総合 PMI	7月	52.0/52.7/52.4

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	136.00-139.00	1.0150-1.0300	139.00-142.00

【マーケット・インプレッション】

昨晩の海外市場では、ドル/円は反落した。欧州時間は日銀の大規模緩和の維持等を受けてドル/円は138円台後半まで上昇。しかし、NY時間に発表された経済指標が軟調な結果となると、米金利の下落を横目にドル/円も137円台半ば付近まで反落した。また、昨晩はECB理事会が行われ、0.5%の利上げと、市場安定化に向けた新たな債券買い入れ措置の導入が決定された。これを受けて一時ユーロは上昇したが、ラガルド総裁発言や利上げによるリセッション懸念などから値を戻す展開となった。ユーロ/円は140円台半ば付近まで下落した。本日のドル/円相場は引き続きドル売り円買いの流れが継続すると予想。今晚は、米7月PMIの発表が予定されており、これらの指標結果が予想以上の低下となれば、更にドル/円の下落が強まるのではないかと見られる。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 尾身・小林